

【社会科・中2・日本の諸地域「関東地方」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 関東地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象やそこで生ずる課題を理解する。
- (思・判・表) 関東地方において、人口や都市・村落を中核とした事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- (学 向 力) よりよい社会の実現を視野に、関東地方に見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

ICT活用のポイント

資料から個別に情報を読み取った後、学習支援ソフトの付箋機能を活用し、グループで情報を分類・整理し、考察する授業

【つかむ】

資料を基に、本時の学習のめあてをつかむ。

なぜ、東京23区には多くの人が集まるのだろう

【追究する】

配信され写真や地図等の資料を基に、東京23区内にあるものを読み取る。学習支援ソフトの付箋機能を使い、グループで情報を分類・整理する。

【まとめる】

シンキングツールを活用し、東京23区に人口が集まる要因について考察する。

事例の概要

- 霞ヶ関の写真（大型モニタ）や「東京都の昼間人口と夜間人口」の資料から、本時のめあてをつかむ。
- 地図や写真などの資料から、東京23区に集まっている施設等を個で読み取った後、学習支援ソフトの付箋機能を活用し、グループで情報を分類・整理する。
- 学級全体で情報を整理した後、めあてに対する考察を行う。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 個で読み取った情報を基に、学習支援ソフトの付箋機能を活用し、グループで意見交換しながら、「政治」「教育」「経済」といった観点で、情報を分類・整理し、カードにまとめる。
- 追究過程で、仮提出された他の班のカードを参照することで、自らの考えを広げたり深めたりする。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 学級全体で情報をまとめた後、シンキングツールを活用し、「事実」と「考え」を区別しながら、めあてに対する考察を行う。

【社会科・中2・日本の諸地域「関東地方」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



「つかむ」過程で、端末に霞ヶ関の写真や「東京都の昼間人口と夜間人口」、「東京都と〇〇市の人口の比較」などの資料が配付され、生徒の疑問等から本時のめあてがうまく設定された。

続いて、写真Aのように、地図や写真などの資料から、東京23区内にある施設について、個別に情報を読み取った。個別に読み取った情報を、写真Bのように学習支援ソフトの付箋機能を活用することで、グループで意見交換しながら、カードに情報を分類・整理することができた。

追究している過程で、教師の指示により、一度全グループがカードを仮提出した。仮提出されたカードが学級全体で共有されたことで、別の班の情報を参照でき、写真Cのように、各班での考えの広がりや深まりにつながっていた。

【事例におけるICT活用の場面②】



学級全体で、東京23区内にある施設について分類・整理した後、めあてに対する考察を行った。考察の際には、写真Dのように、シンキングツール(クラゲチャート)を活用することで、「事実」と「考え」を区別しながら明確にまとめることができていた。

各時間の振り返りは、写真Eのように、学習支援ソフトにデータ化して保存している。こうすることで、小単元だけでなく、大単元全体での学習の記録も蓄積され、単元全体の課題をまとめる際にも容易に振り返ることができ、貴重な学習記録となっている。

【活用したソフトや機能】

- ・文書作成ソフト
- ・表計算ソフト
- ・ウェブブラウザ
- ・学習支援ソフト